

日本物理学会 日本物理学会 2018 年秋季大会

領域 10 誘電体分科インフォーマルミーティング

日時：2018 年 9 月 10 日（月）17:00～18:00

場所：同志社大学京田辺キャンパス C214 会場（参加人数 17 名）

進行：領域 10 誘電体分科運営委員 佐藤幸生（九州大学）

書記：領域 10 誘電体分科運営委員 中島伸夫（広島大学）

1. 領域 10 運営会議（2018 年 6 月 8 日）の報告

- ・ 次年度（平成 31 年度）の正副代表・各分科の運営委員について紹介があった。
- ・ 次年度の代表は持ち回りで誘電体分科から選出されることが決まっており、現在副代表の池田直氏（岡山大学）が内定している。
※ 副代表については口頭で紹介があった。翌日の領域 10 インフォーマルミーティングで了承された。
- ・ 各分科から選出されている運営委員の中から、連絡委員 1 人（半年任期）を各分科からの持ち回りで選出することになっている。2018 年 9 月末までは松中 大介氏（信州大学）、2019 年 3 月末までは佐藤和久氏（大阪大学）、2019 年 9 月末までは堀部陽一氏（九州工業大学）が内定している。

2. 第 75～76 期代議員候補者の推薦及び立候補について

2019 年 4 月 1 日～2021 年 3 月 31 日が任期となる代議員候補者について、誘電体分科からの推薦あるいは立候補について、意見交換を行った。現在、松下 栄子氏（岐阜大学）が代議員を務めて下さっている。1 回に限り重任可であることから、誘電体分科からは引き続き松下氏を推薦することとなり、ご本人からもご承諾いただいた。

3. 若手奨励賞審査委員の確認について

若手奨励賞の審査委員の選出について以下の説明があった。

- ・ 正副の領域代表と 4 名の委員
- ・ 4 名の委員は各分科から推薦（任期は 2 年）
- ・ 現委員が次の委員を推薦、委員は非公表（任期内の選考が終了した後に領域 10 の Web ページにて公表：「日本物理学会賞若手奨励賞領域 10 選考細則」より）

4. 学会参加費の増額について

この秋季大会から実施されている学会参加費増額について説明があった。学会の収支が

赤字であることと補助金が打ち切られたことが発端であるとの説明がなされた。

5. 学生優秀発表賞について

この秋季大会から実施されることとなった学生優秀発表賞（旧学生奨励賞）について、簡単な説明があった。この秋季大会で応募者からの指摘で明らかになった募集要項（領域10Webに掲載）の不備について、修正案の提案がなされ、誘電体分科として承認した。

※ 翌日の領域10インフォーマルミーティングで了承された。理事会へ提出される。

※ 3回以上の発表と講演概要提出が条件となるが、ちょうど3回目の発表のタイミングで応募しようとする、申請時に未提出の「講演概要」の提出できないという矛盾を解消するように修正した。

領域1から、「学会発表申込 Web ページから学生優秀発表賞に応募できるようにしてはどうか」との提案があった。誘電体分科としてもその提案に賛同することにした。

※ 翌日の領域10インフォーマルミーティングで賛同することになった。

6. プログラム小委員会・領域委員会報告について

- ・ 委員会資料が必要な方は、その時点での領域代表に申し出ること。
- ・ 次の第74回年次大会は日程が早い（2019年3月14日～3月17日）ので、プログラム編成の期間が短いことに留意する。特に、運営委員の2名。
- ・ シンポジウム立案の際には制限事項があるので、注意されたし。

7. 領域10若手奨励賞（推薦書の様式）について

選考細則に記載のある「研究題目」について、現時点での推薦書にはそれを記載する欄がない。推薦書にその欄を設けるかどうかについて意見交換があった。誘電体分科としては、候補者の研究分野を概観するものとして、研究題目の欄があった方がいいのではないかという意見もあったが、ひとまずは領域10全体での議論の推移を見定めることにした。

8. 次々期領域運営委員について

次々期領域運営委員（2019年4月～2020年3月）として、符徳勝氏（静岡大学）が次期運営委員・堀部陽一氏（九州工業大学）より推薦されて承認された。

9. 国際会議の報告と告知

- RCBJSF-14（日露バルト三国強誘電体シンポジウム、May 14-18, 2018, St. Petersburg, Russia）について、池田直氏（岡山大学）より報告があった。次回RCBJCF-15は、池田直氏（岡山大学）がChairpersonとなって、岡山で（予）2020年7月13日（月）～7月17日（金）に開催されることが紹介された。日程については、後述のIWRPと調整中。
- IWRP-2018（Jul. 17-21, 2018, Vancouver, Canada）について、大和田謙二氏（量研機

構)より報告があった。次回は、2020年にビリニュス(リトアニア)で開催予定と紹介された。

- iii) 2018 ISAF-FMA-AMF-AMEC-PFM Joint Conference (IFAAP 2018, May 27 - Jun. 1, 2018, 広島)について、黒岩芳弘氏(広島大学)より報告があった。1001名の参加者(899名の発表者)があったとのこと。
- iv) JKC-FE12 (Aug. 5-8, 2018, 奈良)について、是枝聡肇氏(立命館大学)より報告があった。153名(日:97名、韓:56名)の参加があったとのこと。次回 KJC-FE13は、夏の暑さを避けて、2020年9月後半に韓国で開催されると紹介された。なお、2022年のJKC-FE14では、是枝氏が Chairperson を務める予定。
- v) 日本セラミック協会が共催する PACRIM13 (沖縄、2019年10月27日~10月31日)の開催について、黒岩芳弘氏(広島大学)より紹介があった。

以上

2018.10.6 Upload by N. Nakajima